

作者プロフィール

袖木 文夫氏 千葉県隊友会会員 習志野支部長 桧町陸幕 平成2年退官 1958年防衛大学卒
元防大山岳部監督 現自衛隊山岳連盟会

小 檜 山 - 足慣らしの雪山 -

小檜山（夏）



2月上旬、ちょっとした足慣らしと思い、仲間を誘って山梨百名山の一つ小檜山（1713m）に出かけた。この山は奥秩父の前衛ではあるが、中央線の塩山駅付近から仰ぐ堂々たる山容に、心誘われる登山者も多い。

予約したタクシーで塩山駅から焼山峠に向かう。圧雪された雪道をスパイクタイヤで快調に飛ばして焼山峠到着 9時過ぎ。装具を整え 9時20分、子授け地蔵が立ち並ぶ登山口を出発。最初はカラマツ林の中の防火帯に沿うゆるやかな登り。積雪 40～50cm。踏み跡はある

防火帯の登り



が、吹き溜まりでは消えてしまっており、交替のラッセルにすっかり汗をかく。小さなピークを幾つか上下した後、的石の急登になり、昔取った杵柄で小生、先頭のキックステップを買って出て汗を流す。後は高原のような広やかな尾根になり、



小檜山山頂

11時半には小檜山の山頂広場に到着した。

白銀に輝く富士山が見事。振り返ると木の間越しに金峰山などの奥秩父の山々が立ち並んで見えた。しかし風が強い。若干のカメラタイムの後は早々に出立

山頂からの富士山



して小檜峠に向かった。この下りも又、ズボズボ足が潜り難行苦行の連続。12時小檜峠に到着し、東側に一段下った風陰で日なたぼっこを楽しみながら、弁当を広げた。

この後、予定した幕岩、大沢ノ頭方向は踏み跡もなくラッセルが思いやられるので断念し、直路、「母恋し道」を下山することにした。南面のこの道は、これまでとは打って変わり、まるで嘘のように踏み跡がしっかりし、風も無くまるで春の山。



小檜峠

13時、道は幕岩方面から下りてくる「父恋し道」と合流し、以後は林道歩きになり、時折氷結した足元を気にしながらもドンドン下る。14時、オーチャードビレッジ・フフとかいう休業中の町営施設に到着し一休みの後、南向き斜面のブドウ畑の中の道を、日差しを楽しみながら下る。

地図を見ても分かりにくい里道を当てずっぽうにどんどん下り 15時半、お目当ての町営温泉「牧の湯」に行き当たった。下山後の温泉はまさに極楽。